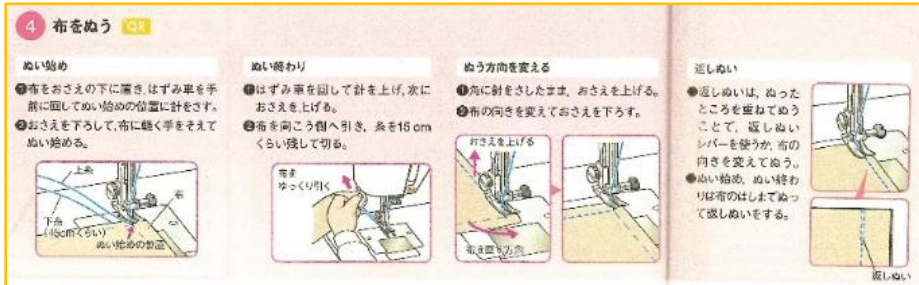




自己肯定感を高める授業をめざして

指導員訪問④ 5年 家庭科「ミシンでソーイング」 鶴野 なつみ 教諭



5月より「5類感染症」に引き下げられ、家庭科の調理や製作など教育活動が完全に復帰。「ソーイング初めの一步」では、思いをもって作成する姿、逆に手縫いの



大切さを感じた鶴野学級の子供たち。この單元では、ミシンの使い方の知識、技能の習得はもちろんのこと、生活を豊かにするための布製品を作り楽しさ、使う喜びを味わわせたいと願いを込めます。本時では、直線縫いや向きを変えて縫うよさについて理解し、適切にできる姿があるかどうかです。



まず初めに2種類のランチョンマットを提示し、さらに個々に配付。「きれい」に縫うとは、①まっすぐ、②角がきちんと、を確認しました。次に①②について、手順だけでなく姿勢、手を置く位置など安全面の確認です。実際にペアで1台のミシンを使って練習布の線に沿って縫ってみました。最後に教師が②を縫っている動画④と⑤を視聴。④は針を下ろして正しい手順で、⑤は下ろさずに縫った場合です。実際の布を表裏を見せて、下の記録のように、T1で立ち止まり、●T4でゆさぶりをかけました。



<授業記録より一部抜粋、編集>
 ★動画④→⑤を視聴、再度④について布を見て、ずれを確認後、立ち止まって
 T1：ずれてるの気づくよね。角はちゃんと針さして直角にしたけど、ずれてるよね。きれいで言える？
 C2：きれいで言えない。
 C3：きりぎり攻めるの難しくない？
 ●T4：せっかくトートバッグ作るんだから、きれいに作りたいよね。
 C5：練習する。
 C6：スピードを落とす。
 T7：先生スピードどうだった？
 C8：めちゃ速い！速いにしてる。
 C9：普通より速い。普通よりも上。
 T10：角はみでちゃうだったら・・・
 C11：こっちは効率がいいけど、角が。
 T12：角はみ出ちゃって、汚くなっちゃうだったら、もうちょっとスピード落としてゆっくりやった方がいい？



協議会では、失敗による困り感の必要性、動画の有効性やタイミング、操作手順カードの活用など議論の中心に。指導員から、安全面の確認や配慮、作業を

確保する工夫、困り感を生む必要性、活動の様子からの評価、めざすSDGsの視点まで教えていただきました。

私は、C11に着目。この子は、「早く作りたい」「失敗しやすい」とスピードの速・遅の視点から葛藤していました。それは、●T4「トートバッグ」に戻ったからです。授業後に「これから大切に使うものだから『正確』に作りたい」と語りました。

C11を広げることで、本時の「よさ」＝「強度」「持続」が明確になると感じました。

